

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演題 上顎洞底挙上術を用い補綴治療を行った一症例

演者名 飯干光男

日付 2013年3月26日

keywords

1. ITI Treatment Guide vol.5
2. 歯槽頂テクニック
3. 側方開窓テクニック
4. 骨移植材料

上顎臼歯部に垂直的骨量不足がある患者へのインプラント埋入を可能にするための様々な術式が、臨床医によってもたらされてきました。そして現在、上顎洞挙上術は、不足した骨高径を補正する一般的な術式のひとつになっています。

一方で、上顎洞底を自家骨、もしくは代用骨で挙上するという術式は、中等度から高度の複雑性をもち、大きな合併症のリスクもあります。

今回発刊された「ITI Treatment Guide vol.5」では、上顎洞底挙上術に関する、エビデンスに基づくデータや推奨される術式等が示されました。

そこで、3年前に上顎洞底挙上術を行い、全顎的に補綴処置した症例を見直し、その処置が、コンセンサスの得られている方法であったのかを検証したものを発表したいと思います。